

東日本大地震被災地支援活動報告～NPO法人地域の力

名取市（宮城県）北釜ハウス建設、援農ボランティアツアーに参加して

■ツアーについて

4月13日、宮城県名取市北釜地区での温室づくりを主な活動とする援農ボランティアツアーに参加しました。地域の力で参加したのは小見野さん、前田庸行さん、豊村の3名です。

北釜地区というのは、仙台空港に隣接する地域で、震災前は農家のグループが青物野菜を栽培していたそうです。3.11以降は、一帯が廃墟状態になっていましたが、地元有志8人で再起を図ることになり、野菜栽培用のハウスを14棟全部建てることになりました。有志だけでは14等全部を完成させるには時間がかかる、野菜作りをできる限り早くはじめるには他からの支援を仰がねばならないということで、NPO法人農商工連携サポートセンターが仲立ちとなり、この日の援農ボランティアツアーが企画されました。

■活動の内容

私たち3名は新幹線往復料金よりも安い新幹線往復+1泊の格安パックで、前日2時30分には仙台に到着。周遊バスで青葉城公園に行き、伊達政宗公の騎馬像や展望台から見える街の景色を一望。その後、市内の主な観光スポットをバスで巡りました。夜は、東北一の歓楽街の国分町に繰り出し、仙台名物の牛タンに舌鼓を打ち、痛飲いたしました。

翌日、仙台駅東口で送迎バスに乗り込み、作業地北釜へ。車内では、オリエンテーションや参加者による自己紹介などが行われました。バスには29人ほど乗っており、東京、埼玉、千葉など首都圏からの参加者が目立ちました。また、目的地に近づくと、車窓から荒涼とした被災地の様子を眺めることができました。

11時頃からハウスの組み立て作業開始。といっても、大まかな骨組みの組み立ては終わっており、骨材のパイプの接合部分に金具で補強していく簡単な作業。女性も多数参加していましたが、作業は順調に進み、午後1時頃には作業目標の7割方が完成していました。昼食は大きなおにぎりが3箇所と飲み物。簡単な昼食と言っていた割にはボリュームがありました。午後2時頃から作業再開。1時間ほどで予定の作業を終え、そのあと、バーベキューを楽しみながらの交流会。地元の農業集団のドリームファームの人たちが肉（牛タン、ホルモン）や野菜（主に長ネギ）を焼き、お酒も生ビール、焼酎、日本酒が振る舞われ、5時くらいまで楽しく交流しました。

■活動終了後

パーティー終了後、私たちはバスで仙台駅へ。6時頃駅に到着しましたが、私たちが乗る列車の時刻までは間があるため駅前の高層ビルの屋上に上り、落日の景色を眺めながら、舟木一夫の「高校3年生」を歌おうと思いましたがやめました。そのあと、伊太利亜料理屋でワインを飲みながら時間を潰し、20時15分頃の新幹線で東京に向かいました。

「協働と交流」はNPO活動の基本だと言うことを改めて考えさせられた今回のツアーでした。お世話をいただいた大塚洋一郎さんなど農商工連携のスタッフ、シンジェンタ、ドリームファーム楽園のメンバーには心から感謝です。

（レポート：豊村泰彦）